

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 15 日現在

機関番号：32689

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2014～2015

課題番号：26630280

研究課題名(和文)ベトナム・フエ歴代皇帝陵周辺における参与型研究を通じた集落環境の整備手法の研究

研究課題名(英文)Improvement of Peripheral Village Environment surrounding the Nguyen Imperial Tomb through Action Research

研究代表者

佐藤 滋 (Sato, Shigeru)

早稲田大学・理工学術院・教授

研究者番号：60139516

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、世界遺産都市フエにおいて文化財保護を目的とした開発規制がかけられている遺構の周辺集落を対象に、住民自身が水田の管理や集落景観の保全といった活動を通して地域固有の歴史的環境保全に関与することで遺跡近接地域における集落の定住を実現するような計画論を提示し、その課題を明らかにすることを目的とした。

そのために、まず対象集落の基礎情報、地域的な課題について現地調査を行った。次に、その分析結果をふまえて、集落が歴史的環境保全に関与し、住み続けられるシナリオを作成した。最後に、住民参加のセミナーを現地で開催し、同シナリオに基づいて集落内の住環境を自律的に改善する方法について住民と意見交換した。

研究成果の概要(英文)：This research tries to present a planning method for the World Heritage Site, Hue-Vietnam alternative to strict building controls or resettlement in protection zones and the buffers, which has been implemented in this region until now. The peripheral villages of the Nguyen Imperial Tombs make use of the historical water systems, exploit the neighboring forests and influence on the local landscape with their daily activity. But including the historical water systems, the Hue's unique cultural landscapes would require a more integrated approach than just the definition of such monumental control areas.

For that purpose, a field research was carried out in 2014.

Based on the analysis, we came up with 6 topics for sustainable development and a hypothetical scenario for progressive action. These ideas and scenario were discussed with local inhabitants through a participatory workshop in 2015 in terms of enhancing the sustainable management of the Imperial Tomb and the historical-eco system.

研究分野：建築・都市計画

キーワード：皇帝陵 ベトナム 参与研究 世界遺産 バッファゾーン 文化的景観 水利環境 文化財保全

1. 研究開始当初の背景

ベトナム中部に位置するフエには、同国最後の統一王朝である阮朝(1802-1945)時代に建造された歴史的建造物が数多く配されており、都城である京城や皇帝陵といった遺構は1993年にユネスコ世界遺産に登録され、これまでに保存・修復に関する取り組みが続けられてきた。

その一方で、歴史的環境の保全に関しては、歴史的建築の敷地の外周に同心円状に設定されたバッファゾーンで「文化財保護を目的とした開発規制」を行い、ゾーン内における建築行為の制限、あるいは再定住を命じるという保全計画が政府により進められている。

フエにおける歴史的環境の最大の特徴の一つは、香江を中心とした豊かな自然生態的な基盤の上に発展し、歴史的に継承されてきた環境制御技術が、単体の建築のみならず都市・地域の設計にも組み込まれていることにある。モンスーン地域特有の雨季と乾季がはっきりとした気候と水系の中に都市と農村を調和させ、個々の建築と人々の生活が周囲の環境と共生することを可能とした技術は、当該研究で対象とする阮朝初代～第四代皇帝陵の配置計画にも見ることができる。

これらの皇帝陵には、その敷地内部に大きな池が造営されており、周囲の丘陵地へ降った雨水をその池へ導入し、水路と水田を介して香江へ排水するような水利環境の仕組みが陵墓建造時に整備された。当該研究者らの既往研究から、王朝が崩壊してから現在に至るまで、皇帝陵と連結する水田管理を周辺の集落が担ってきたことが明らかになっている(図1は嘉隆帝陵周辺の環境が描かれた絵図)。

以上の状況をふまえた上で、歴代皇帝陵周辺における自律的な住環境改善の推進が、当該地域固有の歴史生態学的環境の保全や再生に寄与する可能性に着目し、法規制や政府主導の居住地移転に代わる定住のあり方を検討することが本研究における基本目標である。

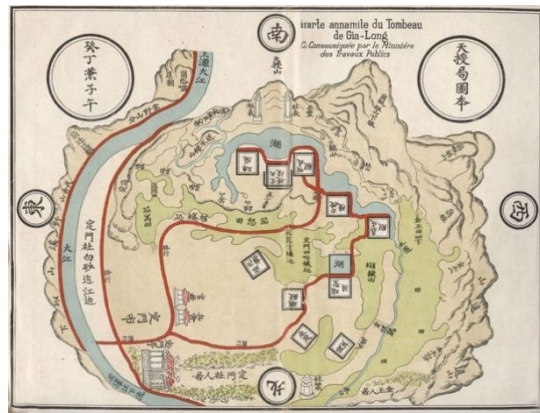


図1: 嘉隆帝陵を中心とした魚眼図(出典: BAVH 1923_vol. 3)



写真1: 嘉隆帝陵周辺に配された水田

2. 研究の目的

本研究では、文化財保護を目的とした開発規制によって建築行為等に制限がかけられている歴代皇帝陵周辺集落を対象として、居住者自身が水田や水路の管理、集落景観の保全といった活動を通して地域固有の歴史生態学的環境の保全や再生に関与することで、遺跡近接地域の集落における定住を実現する計画論の可能性と課題を、参与研究を通じて検証することを主たる目的とした。

3. 研究の方法

本研究では、1) まず、古地図の解読、村史に関する歴史家および村の集会施設「亭(Dinh)」の管理者へのヒアリングから集落の起源について推定し、その後現在に至るまでに世帯分離に伴って集落が拡大し発展してきたプロセスを居住者インタビューから明らかにした。2) さらに、居住者の生活史と生活実態を住まいの様子と合わせて詳細に記録したデータベースを作成し、居住に関する地域的な特徴と課題を整理した。3) 歴代皇帝陵周辺の歴史的環境の保全に関与しながら、その近接地域に住み続けることができる集落整備に関するシナリオを作成した。

4) そして、集落住民参加の元でセミナーを開催し、上記の仮説的なシナリオに基づいて集落内の住環境を自律的に改善させていくためのアイデアについて検討した。5) 最後に同セミナーの結果を分析し、遺跡近接地域における集落の定住を実現するための同シナリオの課題と可能性について考察した。

尚、本研究は、当初初代～第四代皇帝陵の周辺地域を対象とする予定であったが、研究期間と予算等の制限を考慮し、初代皇帝陵「嘉隆帝陵」の周辺集落だけに限定して考察を行うように研究計画を変更した。

4. 研究成果

(1) 年次毎の研究活動の概要

平成 26 年度

初年度は、まず古地図の解読、村史に関する歴史家および村の集会施設「亭 (Đình)」の管理者へのヒアリングから、集落の起源について推定し、次にその後現在に至るまでに世帯分離に伴って集落が拡大し発展してきたプロセスを居住者インタビューから明らかにした。その後、居住者の生活史と生活実態を住まいの様子と合わせて詳細に記録したものをデータベース化し(図2)、居住に関する地域的な特徴と課題を整理した。

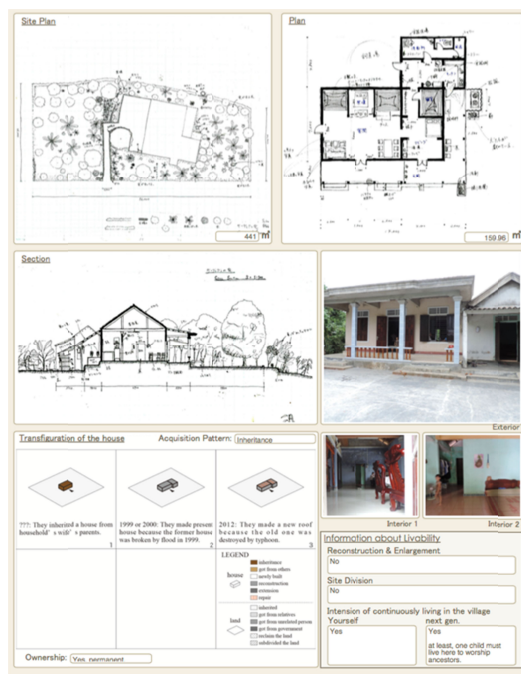


図2：嘉隆帝陵周辺集落の居住データベース

平成 27 年度

最終年度は、嘉隆帝陵周辺集落に限定して、住民および自治体の地域計画担当者、遺跡保存行政の担当者参加のセミナーを夏の約1週間にわたって現地で開催し、集落の環境改善のためのシナリオを検討した。

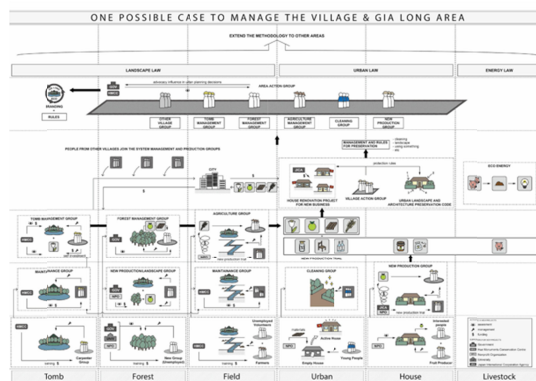


図3：段階的な集落の住環境改善と歴史的環境再生のシナリオ案

このセミナーを通して、地域から環境改善に関するアイデアやその実現に向けて想定される課題等を収集・整理し、最終的には当該遺跡周辺集落のレガシーを守り次世代に引き継いでいくためマニフェスト(地域憲章)を住民代表らとの協議を通して作成した。この地域憲章は、1 歴史資産の保全、2 水を中心とした自然環境との調和、3 集落の住環境改善、4 地域振興のための新たな雇用の創出、5 魅力の発信、6 コミュニティ強化という6項目からなり、今後の集落環境を改善していくための指針として合意された(図4)。

Manifesto

- 1 **Royal Heritage**
 "Respect our ancestors' legacy and renew it into lively ruins"
 <keywords: tombs, temples, peregrination, yamaite landscape, pond, forest... >
- 2 **Nature/ Systems**
 "Understand the eco system of Gia Long and maintain it for the unique landscape"
 <keywords: agriculture, forest, water way, pond, paddy field, dam, water quality>
- 3 **Physical quality of the Village**
 "Get back the townscape harmonizing with the tombs, Huong River and nature."
 <keywords: houses, gardens, edges, roads, garbage...>
- 4 **New activities in the Village**
 "Enrich the village life with making the most of assets we have"
 <keywords: fruits, livestocks, handicrafts, cooking, sports, music, hobby etc...>
- 5 **Diffusion**
 "Connect the village to the outside and diffuse the value"
 <keywords: commerce, logistics, transport, branding, endorsement, tourism, Hue festival, ICT etc... >
- 6 **Community**
 "Share our mind and live together with cooperating and supporting each other"
 <keywords: festival, events, sharing information, education, cooperation... >

図4：住民代表らと作成した集落環境改善に向けた地域憲章

その後関連行政担当者に上記の成果を報告し意見交換を行うシンポジウムを開催し、

歴代皇帝陵の周辺環境の保全における森林、河川、農業等、関連担当部局の協力の必要性、およびその環境を今後再生させるために実際に行動にうつす重要性について共有した。

最後に、住民代表らと作成した上述のマニフェストを一般の集落住民に普及する試みとしてワークショップを開催し、一般の農民や若者、女性らが認識している課題とその解決に向けたアイデアを出し合うための「環境改善のためのアイデア旗刺しゲーム（写真2、図5）」を2日間に渡って開催した。



写真2：環境改善のためのアイデア旗刺しゲームの様子

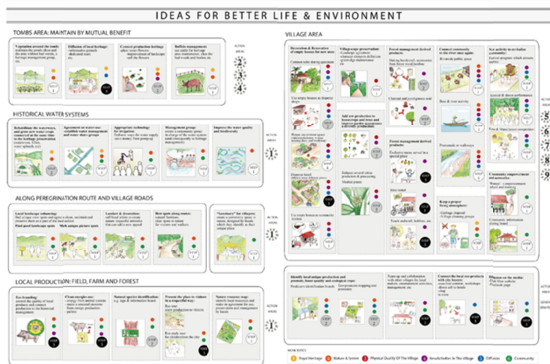


図5：歴史的環境の改善のためのアイデアリスト

次項から当該研究を通じて得られた主な研究成果について概要を述べる。

(2) 嘉隆帝陵周辺の歴史的環境再生の課題

図1の魚眼図にも描かれているような、嘉隆帝陵周辺の歴史的環境保全のために当該研究により整理された課題について述べる。

文化財保護のために敷かれたゾーニングには、水田や周囲の山々が含まれておらず、現行の開発規制では歴史的環境を保全することが困難であるが、そのマネジメントは地元住民に委ねられている。

2005年前後より、地下水の低下などによる慢性的な水不足やネズミ被害から、水田管理を断念する農民が増えている。

水田耕作をやめた農民の多くは、周囲の山々へアカシアを植林・伐採する林業へシフトし、当該地域で主要な産業となりつつある。結果として、水田に導入する雨水を周囲の森林が保水できなくなるなど、水利環境が大きく変化しつつある。

林業の代替となる雇用の確保がなければ、植林を制限する規制を設けることはできず、また、水利環境が再生されない以上、農民を再び水田へ戻るように説得するのは難しい。

以上の4点から、現行の住宅建設だけに制限をかけたり再定住させたりすることは、歴史的環境の保全には不十分であり、今後は、嘉隆帝陵周辺の水田を再生させるための灌漑システムの構築、その灌漑システムを助ける森林土壌の保水機能を高める取り組みの実施、現在主産業となってしまったアカシア林業の一部を代替する雇用の創出等、包括的に環境再生を進める必要があると云える。

(3) 歴史的環境再生に向けた考え方の共有

以上の課題をふまえた上で、今からでも始められるような「日常の生産活動を行う上での注意徹底」や「身の回りの環境改善」といったことから始め、徐々にパイロット事業の実施や連携を通じてコミュニティを組織化し、段階的に歴史的環境の管理の仕組みを最適化していくシナリオを作成した（図6）。

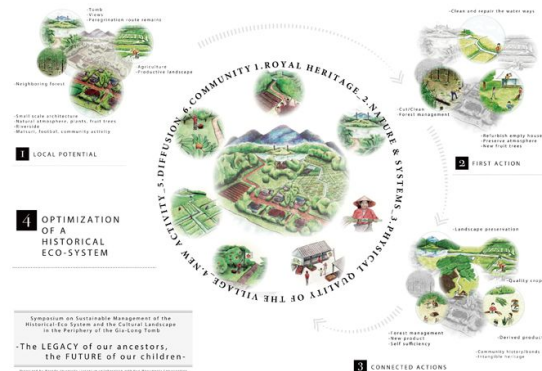


図6：歴史的環境の管理の仕組みを段階的に最適化するプロセス

上述の住民参加のセミナーにおいて、参加者間でこうしたシナリオを共有することができたことから、段階的に嘉隆帝陵の歴史的環境のマネジメントに集落が関与するようになり、その価値の向上や普及に貢献しながら、オンサイトでの定住を実現していくプロセスについて、参加者から一定程度賛同が得られた。このことは、周辺集落との協働による歴史的環境保全と地域開発の計画論の可能性を示している。

(4) 今後の展望

2015年に開催した一連のセミナーでは、参加者間で地域の課題や可能性について共有することができた。一方で、セミナー後に実施したアンケート調査の結果、主に農民は水システムの再生が最重要課題と認識し、女性は暮らし全般や林業に頼りきりになっている仕事の状況を改善するために新しい仕事について検討したいという意見が多く見られたこと(図7)から、当該研究の枠組みにおいて地元の住民代表らが作成した地域憲章の元で今後具体的な行動を起こす際には、異なるテーマ毎にグループを組織化して、個別の課題に取り組むことが重要となると考えられる。これにより、歴史的環境保全のための地元コミュニティをより一層効果的に組織していくことができると云えよう。

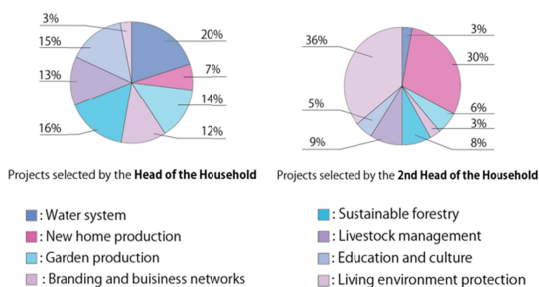


図8：世帯主と配偶者それぞれの興味のあるプロジェクト選択結果 (アンケート調査・複数選択可・集落内全160軒のうち99軒回答)

5. 主な発表論文等

[学会発表](計7件)

Alba V. Zamarbide Urdaniz, S. Satoh, "On the possibilities for integrated management of historical eco-cosmologies -the case of the Nguyen imperial tombs and peripheries"

Asia-Pacific region training course on Historical Urban Landscape Shanghai, China, Dec 2015

Alba V. Zamarbide Urdaniz, S. Satoh, "Management of historical eco-cosmologies -3 reference examples for Thua Thien Hue, Vietnam-" International Seminar on Sustainable Management of the Historical-Eco System and the Cultural Landscape in the Periphery of the Gia-Long Tomb, Huong Tho Commune People's Committee Meeting Hall Hue-Vietnam, Aug.17, 2015

N.Furukawa, Shigeru Satoh, "On the Characteristics and Issues of Cultural Landscape in the Gia-Long Tomb and surrounding Nature and Villages", International Seminar on Sustainable Management of the Historical-Eco System and the Cultural Landscape in the Periphery of the Gia-Long Tomb, Huong Tho Commune People's Committee Meeting Hall Hue-Vietnam, Aug.17, 2015

S. Satoh "Introduction of outcomes on the research about Imperial Tombs in Hue", International Seminar on Sustainable Management of the Historical-Eco System and the Cultural Landscape in the Periphery of the Gia-Long Tomb, Huong Tho Commune People's Committee Meeting Hall Hue-Vietnam, Aug.17, 2015

T.Izumi, N. Furukawa, S. Satoh "A study on living environment in flood-prone village, traditional urban area of Hue, Vietnam -A case of Kim Long ward, periphery of the Hue-Citadel", The International Symposium on City Planning Hanoi, Nov. 2014 ▲査読有

Alba V. Z. Urdaniz, 古川尚彬, 佐藤滋, "Rural development participatory projects for preservation of cultural landscape in the context of the eco-historical region -The case of Thua Thien Hue, Vietnam- : The real buffer. A study on protection tools for World Heritage cultural sites with a strong ecological component (vol.1)" 日本建築学会大会学術講演梗概集(近畿) F-1 p.35-36, 2014.9

泉貴広, 古川尚彬, 佐藤滋, 『金龍坊におけるガーデンハウスの敷地及び住宅の形態変容-ヴェトナム・フエ京城都市の変容に関する研究(18)』 日本建築学会大会学術講演梗概集(近畿) F-1 p.429-430, 2014.9

6. 研究組織

(1)研究代表者

佐藤 滋 (SATOH, Shigeru)

早稲田大学・理工学術院・教授

研究者番号：60139516